Academy Campus　2025 大学入試

合格者の軌跡

Story of their Success
Academy Campus

向陽高校 バスケ部対談

進学先

名古屋大学
工学部
木野 広大さん
向陽高校
バスケットボール部

進学先

九州大学
芸術工学部
山下 仁聖さん
向陽高校
バスケットボール部

インタビュアー
岡 哲司
（ACターミナル校カウンセリングスタッフ）

志望の学部や大学はいつ頃、どのように決めましたか。

山 下： アカデミーの面談で岡先生と話して九州大って決めました。それまではとりあえず大阪大学の基礎工学って言ってたんですけど。自分が好きな分野を岡先生に伝えたら良い学部があるって教えてくれて。それで調べてみたら九州大いいなってなりました。もともと工学には興味があったのと、音楽も好きで。それがミックスできたらと思っていたから、ピッタリの学部でした。

木 野： 名古屋を考え始めたのは高2の秋の模試で。「あ、行けるかも」って。高1の最初の模試では阪大の経済にしていて、そこから大阪公立とか。成績があがったから神戸大とか。で、最終、名古屋になりました。

岡　　： 高1の秋にアカデミーに入ってくれて、しばらくはあまり勉強を頑張っているイメージがなかったのに、高2で急に成績が上がって高校の中で1桁くらいの順位になったよね。これは旧帝大を狙えるなってなった時に、その中でも名古屋にした理由は？

木 野： 急に成績が上がったのは、その時の模試の範囲が「微分」で。「微分は簡単」と思ってやったら、できちゃった感じです。で、成績が上がったからっていう理由でそこからちゃんと勉強を始めました(笑)。大学も学部も特にこだわりも無くて。「行けそうかな」って思って決めた感じで。学科も最後まで悩んでいました。

志望校合格への確信みたいなものはありましたか。

山 下： 記述模試では合格圏内だったから行けるかなとは思ったんですけど、共テの方がヤバくて。そっちの方が心配でした。

木 野： 高3の夏の模試で、自分の中ではEとかD判定だったんですけど、結果がA判定だったので。それで、このまま行けるかなって思いました。

山 下： 受けた時には「できなかった」って言ってたのに、結果がでたら「あ、A判定や」って。「はぁ!?」ってなった(笑)

木 野： 共テも国語でコケなければいけるかなって感じでした。共テはまぁ…4択やから。

山 下： (笑)それはみんな一緒。

AcademyCampusに来てくれたきっかけは？

山 下： GES(中学生部)の中3正月特講の英語でACのヨッシー(吉田先生)の授業を受けて。高校に入ってからもヨッシーの授業がいいなって思って入りました。

木 野： 高1の秋に入りました。高校に入ってすぐの時は、塾はまだいいかなとは思っていて。でも、姉がACだったから、入るならACとは決まっていて。で、秋にそろそろ入るかーって感じで向陽バスケ部で2番目に入りました。

山 下： 嬉しかった(笑)でもクラスが違うから結局会わない(笑)

木 野： でも高3の最後の方の自習は、バスケ部のみんなで塾で頑張ったのが良かった。昼飯が楽しみで(笑)

山 下： 確かに昼飯楽しみやったな。でも、みんな夜ま

で残って自習を頑張っていたのは、広大(木野さん)に引っ張られていたからな気がする。

木 野： そうか、俺のおかげかな(笑)

山 下： 否定はできない(笑)

部活も忙しかった高1・高2の勉強のことを教えてください。

山 下： 高1・高2では、ハイレベル英語・数学(ACクラスライブ授業)を受けていて良かったとずっと思っていました。学校の授業の先取りになるっていうのが性に合っていたので。クラスで向陽普通科の男子では一人だけって時もあったけど、それでも継続して良かった。

木 野： 誘ってくれたらよかったのに。みんなでアドからハイに変えたのになぁ(笑)

山 下： 絶対、変えなかったやろ(笑)。"アドバンスの星"やし(笑)。

木 野： ネタでみんなと言っていただけだったけど、本当にアドバンスの星になった(笑)。途中、ハイレベルに変えるって話もチラッとは出たけど、成績が上がってきた時期が授業の進度的に微妙だったのもあって、結局アドバンスで最後まで受けました。塾には友だちがいて一緒に勉強ができるっていうのが大きかったし。だから、高2の授業では進まなかった数Ⅲの範囲は高3になってからやりました。

山 下： 数Ⅲは高2で終わってた。

木 野： 半年分くらい差があったよな。でも数Ⅲはパターンがあるから。数Aの確率とかの方が大変だった。高3になってからも参考書をやったり5時間くらいの動画を見たり。

山 下： 同じ動画で勉強したなー。

木 野： バスケ部の中でどの参考書がいいとかどの動画がいいとか共有してたのも良かったよな。

山 下： そうそう。あと、自分の中では"バスケ部で1位"みたいなのはけっこう頑張る理由みたいになってた。

木 野： 追い越そうと思って頑張ってたことがある。

山 下： ふと気づいたら、めちゃくちゃ上がってきてたよな(笑)

木 野： 最初はだいぶ離れていて、これは無理かなって思ってたけど。意外に追いついた(笑)

山 下： おかしくない？(笑)急に上がってきて、高3になってからは共テ模試とか抜かれてたし。あ、あと高1・高2の時にはバスケ部のメンバーに教えてたりしていて。教えていたら自分の中でも定着するからそれも良かったのかも。

木 野： 自分は教えるの苦手。でも、アカデミーで数学のRyu先生(山本先生)に質問にはよく行って、分からないところを伝えていたら、伝えている間に頭の中が整理されて分かるって時はけっこうあった。

山 下： スタイルが違うよな。自分は質問とか無しで自力でやらないとって思っているところがあった。あと、高1・高2の間は、家に帰ったら勉強はやってなかったです。テスト前だけ。テスト期間入ってからテスト勉強。それまでは、授業の隙間時間とかに「4STEP／数研出版」をすすめていたくらいで。だからアカデミーで授業を受けていて本当に良かった。

木 野： 4STEPは…写すだけ。テスト前にアカデミーで対策してくれる分を、いかに速く写せるか(笑)

山 下： それでなんで名古屋行けるん(笑)。

木 野： でも理科はちゃんとやってた。「リードα／数研出版」とか。公式を覚えて、それをどう使うかっていうところをちゃんとやってました。やる気がでたので。数学はめっちゃ考えないといけないけど、理科はパターンがあるから。やることが分かれば、公式はだいたい一緒やから。

山 下： え、理科にそんなイメージ無い。やっぱり違うスタイルやな。

サテライン講座についてはどうでしたか。

山 下： いろいろ受けました。亀田先生のハイレベル化学。漆原先生の物理、荻野先生の天空へのハイレベル理系数学、西川先生のEnglish Links Plus。中でも、荻野先生の数学は、解説がめっちゃ丁寧で分かりやすかった。

木 野： 荻野先生の数学は、汎用性あるよね。他でも使える考え方で分かりやすい。

各教科の受験勉強の進め方はどのようにしましたか。

木 野： 数学は、成績が上がり始めてからは分かるようになってたけど、最初の頃の内容が分かっていなくて。その部分を「基礎問題精講／旺文社」でやりました。それでも圧倒的に量が足りていなかったから「チャート式参考書／数研出版」で。ⅠAは青チャート、ⅡBは黄チャートをやりました。全部やっていたら時間が足りないので、分かるところは、問題を見て解法が思い浮かんだら解答を見てそれが合っていたらすぐ次へ行くみたいな進め方で。あとは「重要問題集／数研出版」と「やさしい理系数学／河合出版」。

山 下： 俺は「大学への数学 スタンダード演習／東京出版」。ⅠAⅡBをやってたけど、めちゃくちゃ難しくて。1周するのも無理かなって思ったけど、根性でやりきりました。高3の夏の間にずっとやって終わらせた感じでした。

木 野： 夏はまだ青チャートの数Ⅲやってた(笑)。でも、参考書は自分で見て選ぶのが一番だと思う。解説が自分に合わないとかあるから。仁聖(山下さん)のスタンダードとか問題が詰まっている感じが自分はしんどいなって。

山 下： 前半でやる気が失せる感じな。しんどかった。でも、アカデミーのハイレベル数学でやるように言われてたから。やるのが当然みたいな感じで。同じハイレベルクラスの人は春には終わってて、自分は遅れていたくらいで。あと、共テ模試の国語の点数が悪かった時はしんどかった。もうひたすら問題集をやりまくりました。

木 野： バスケ部メンバーがめちゃくちゃおすすめしてた問題集よな。どうやった？

山 下： あれは、良かったといえば良かったけど…。でも結局アカデミーの国語のテキストがあったからそれだけでも良かったかも。国語はもともと嫌いで古文漢文がわけわからなかったけど、高2で長沼先生の国語(ACクラスライブ授業:受験国語)を受けて、標準レベルに戻ってきました。文法メインでやってくれたので、その部分はいけるようになったし。

木 野： 古文漢文の単語や英単語は隙間時間にやってた。部活引退して、塾はいつも22時までいたけど、数学とかをやって21時40分とかに終わったら、もう1問解くには微妙なので、22時まで古典の単語や英単語を。あとは寝る前に見たり。あ、でも英単語は高2の時のアドバンス英語でイキってどんどん進めてました(笑)。チェックテストで点数高かったら、ヨッシーに褒められるから。それがめちゃくちゃ嬉しいから英単語はその頃からちゃんとやってました。

後輩にアドバイスやメッセージをお願いします。

山 下： 自分がコツコツ派の人間だったっていうのもあるけど、コツコツやってくのはいいと思う。やっぱり基礎が身につくので。後になってそれがけっこう大事になってくると思います。

木 野： やっぱり勉強は早く始めた方がいいと思う。その分、後でゆっくりできるので。でも息抜きも大事。しっかり勉強して、息抜き。

編集後記 ～インタビューを終えて～

高1・高2の頃は、ACでは山下君はハイレベルクラスに、木野君はアドバンスクラスに所属していました。山下君は先を見据えて逆算したカリキュラムで学習を続け、木野君は、まずは目の前のことを固めながら積み上げました。高3になってからは、山下君は代ゼミサテライン講座を中心に、木野君はACクラスライブ授業を中心に、力をつけていきました。受験勉強に対するアプローチは異なりますが、二人とも見事に超難関大学に合格、本当に素晴らしいと思います。

受験生活では、二人とも他のバスケ部の仲間たちとともに、毎日22時まで1階自習室で頑張っていました。Peer Pressure(ピアプレッシャー)を感じる環境に身を置き、お互いに切磋琢磨できたことも勝因の一つだったであろうと思います。

向陽普通科から旧帝大合格という偉業を成し遂げた二人が、これから大学で、そして社会でどんな成長を遂げていくのか、本当に楽しみです。期待しています！頑張ってください。受験生活お疲れさまでした！

ACターミナル校カウンセリングスタッフ 岡 哲司